

04  
Lifestyle男たちよ  
目覚めなさい

イラスト/ユリコフ・カワヒロ

年を重ねた女性を  
立てる賢さに  
「目覚めなさい」

某

元総理が現外務大臣を「おばさん」と呼んだことが少し前に物議をかもしました。日本では、とりわけ女性に対しては若さに価値が置かれ、年齢を重ねた女性は一とからげに「おばさん」と貶められる風潮が根強くありますね。

若さをちやほやする、という価値観はそれほど普遍的なものでもなく、時と場所が変わればまったく違う価値観が支配する世界があるものです。

例えば18世紀、フランス革命前のパリ。宮廷人は身支度の最後の仕上げとして、整えた髪の上から、白いヘアパウダーを吹き付けて髪を白くしました。男も女も、です。なぜ？

ロココ文化が好んだバステルカラーの衣装には白い髪が似合う、という美意識もきつとあったのでしよう。しかし、最大の理由は、「みんな同じように年を重ねた人に見せるため」でした。若作りのために白髪を濃い色に染めるのではなく、ひとしく白髪の高齢者に見せるわけです。そうすることで、恋愛対象のターゲットの年齢がどうでもよくなりまじ、高齢女性のプライドを傷つけることもありません。内心の思いはどうあれ、表向きは、女性と高齢者は常に立てて高い価値を置いておくという、社交界のしたたかな知恵なのです。

恋愛が最大の関心事であった有閑階級ならではの工夫ではありますが、実はほかならぬこのヘアパウダーがフランス革命の原因になるのです。庶民は怒ります。「私たちは食べるパンもないのに、

宮廷のあいつら、パンの原料で贅沢なおしゃれをしてやがる！」

そうです、ヘアパウダーの原料は小麦粉だったのです。格差の拡大が限界にきた時に、目に見える形でそれを突き付けられた庶民の怒りと憎悪は、結果的に、貴族総ギロチン台送りにつながりました。「真金不起訴」に対する「インボイス」側の怒りも構造として似ていますが、果たして「インボイス」側がとる行動やいかに。

さて、話を戻します。ある程度、年を重ねた女性に対して「マダム」という尊称で持ち上げるのは、したたかなオトナの知恵であることに「目覚めなさい」。ココ・シヤネルのよう



に死ぬまで「マドモワゼル」と呼ばせられた超ツワモノがいるのが、一筋縄ではいかないところではあります。

カトリーヌ10世  
Catherine X

## PROFILE

グローバル化が進む社交界事情にも通じる。密かな趣味は人間観察とコスプレ。好きな飲み物はモンラッシュエ。日本ではほとんど知られていない、ある小国の女王とのウワサも!

